

E-95	
Medically serious suicide attempts in a jail with a suicide-prevention program.	
Farmer K A, Felthous A R, Holzer C E	
Fellow/research instructor, department of biological psychiatry, university of Texas health science center	
英語	
Journal of forensic sciences. 41(2). 240-6	
retrospective cohort study	
13名	
アメリカ	
留置所	
ガルベストン留置所での自殺例の検討。	
1986年、ガルベストン留置所で自殺予防プログラムが施行されたが、自殺例は例減っただけである。施行前の10年間では7例起きている。13例のいずれも緊急治療室に移送すべき深刻なものであった。病歴の記録、留置所医務班の記録、留置所管理記録を用いて、人口統計学的データ、精神疾患既往歴、企図時の環境、企図後の精神科所見に関して検討した。事例検討も行った。	
Forensic science, forensic psychiatry, jail suicide prevention, Galveston country TX, suicide attempt	

E-96	
School-based prevention of adolescent suicide: Issues, obstacles, and recommendations for practice.	
Miller D N, DuPaul G J	
Lehigh university, College of education, school psychology program	
英語	
Journal of Emotional and Behavioral Disorders. 4(4). 221-230	
Review	
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	学校
目的	青年期の自殺は両親や教育者の主要な関心の的である。近年では青年の自殺率の増加に伴い、自殺予防に関する学校の役割が議論され、様々な手段が提案されている。青年期の自殺予防の手續きをレビューして検討する。
結果・内容・提言	全教員が自殺のサインに気づくように訓練を受けるべきである。自殺の可能性のある生徒に対する対応を明文化すべきである。彼など自殺に導かず関連する内容についても対策を行うべきである。ハイリスク者のアセスメントを実施すべきである。1次予防と2次予防を組み合わせたことが有効である。
キーワード	Issues & obstacles in school based suicide intervention programs, adolescents

管理番号	E-98
タイトル(英語)	Suicide reduction in medium security.
タイトル(日本語)	
研究者	James A
所属機関	Langdon hospital
言語	英語
雑誌情報	Journal of Forensic Psychiatry, 7(2), 406-412
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	19地域
サンプルの国籍(対象地域)	イギリス
対象領域	医療
目的	保護施設における自殺予防について検討する。
結果・内容・提言	19の地域の保護施設に調査を実施。半割において、自殺既遂例があったと報告された。高田がほとんどであり、統合失調症であると思われる者が多かった。入所時にスクリーニングを実施したり、観察することが重要であると思われる。
キーワード	Suicide prevention, medium security, regional secure units

管理番号	E-97
タイトル(英語)	Suicide prevention in an army infantry division: a multi-disciplinary program.
タイトル(日本語)	
研究者	James L C. Kowalski T J
所属機関	Psychological service, Tripler army medical center
言語	英語
雑誌情報	Military medicine, 161(2), 97-101
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	医療
目的	牧師、メンタルヘルス担当者の役割、自殺既遂者に関連した兆候に関して、歩兵に対する自殺予防プログラムを概観する。
結果・内容・提言	自傷の危険のある者における兆候やリスクに対しては、教官や介入など地域にまで手を伸ばした予防が必要である。リーダーシップをとること、指導のポイントとして役立つこと、安心させること、このようなサーベイスマンハリーの保護がプログラム成功の第一歩である。
キーワード	

E-99	
A solution to the problem of jail suicide.	
Cox J. F., Morschauer P. C	
Director of the bureau of forensic services for the New York state office of mental health	
英語	
Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention, 18(4), 178-84	
intervention study	
1984-1986	
アメリカ(ニューヨーク)	
留置所	
1985年に実施された、ニューヨークの田園地域の留置所における自殺予防プログラムの効果について報告する。	
	ガイドラインの作成、スクリーニング、スーパービジョン、保護観察施設、対応の計画化、危機介入、外部医療施設への入院、スタッフの訓練、コミニケーション、収容者の死に関する調査、スタッフへのディブリーフィングを含むプログラムを実施しており、これはハイリスク者のみでなく、囚人全員に向けた対策である。このプログラムの実行により、収容者は100%増加したにもかかわらず、囚人の自殺率は150%減少した。

管理番号	E-100
タイトル(英語)	Depression and suicide in young children.
タイトル(日本語)	
研究者	Workman C. G., Prior M
所属機関	Nursing research department, Allegheny university of the health sciences
言語	英語
雑誌情報	Issues in comprehensive pediatric nursing, 20(2), 125-32
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	
対象領域	地域
目的	子供の自殺予防対策について概観する。
結果・内容・提言	子供の自殺のリスク要因としては、家族歴、12歳以前の喪失体験、暴力、家族の絆の弱さ、家族からのプレッシャーなどがある。子供の自殺予防対策としては、学校においては、学校においてのみでなく家庭においての子供にも手を差し伸べる必要がある。地域における自殺予防対策は様々なものがあり、それらを子供や大人が活用することで、子供の自殺予防の助けとなるだろう。
キーワード	

管理番号	E-102
タイトル(英語)	Jail suicide and prevention: Lessons from litigation.
タイトル(日本語)	
研究者	Welch M. Gunther D
所属機関	Administration of justice, Rutgers university
言語	英語
書籍情報	Crisis Intervention & Time-Limited Treatment, 3(3), 229-244
論文種別	
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	77件
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	留置所
目的	77の自殺訴訟の検討から、政策や慣習について精査する。
結果・内容・提言	スタッフ不足が戻られたのは59%、不適切な訓練や監獄の維持が戻られたのは52%、留置所の状態が不完全だったのは21%、スクリーニングや監視のための手続がなかったのは22%であった。
キーワード	Jail suicide, litigation, prevention

管理番号	E-101
タイトル(英語)	From chaos to calm: one jail system's struggle with suicide prevention.
タイトル(日本語)	
研究者	Hayes L M
所属機関	National center on intuitions and alternatives
言語	英語
書籍情報	Behavioral Sciences & the Law, 15(4), 399-413
論文種別	
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	9名
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	留置所
目的	首都圏の留置所における自殺予防プログラムを紹介する。
結果・内容・提言	24ヶ月以内におきた9例を対象とした。9例の特徴を挙げ、留置所において不十分な点について検討した。スタッフの訓練、スクリーニング、コミュニケーション、管理レベル、建築の構造、介入などが改善点として挙げられた。
キーワード	

One hundred in-patient suicides.
Proulx F, Lesage A D, Grunberg F
Hospital Charles Lemoyne, department of psychiatry, university of sherbrooke
英語
British Journal of Psychiatry, 171, 247-50
retrospective cohort study
1986-1991
3079名
カナダ
医療
精神科入院患者の自殺に関して、その兆候や特徴を検討する。
1986年4月から1991年3月までにモントリオールで起きた3079の自殺例に関して検討。104例が入院患者であり、このうちの約半分が病院内で発生していた。首吊が最も多く、ついで飛び降りであった。感情障害や統合失調症のものが8割であった。

管理番号	E-104
タイトル(英語)	Prevention of suicides in Penal Institutions in The Netherlands.
タイトル(日本語)	
研究者	Blaauw E, Carriere R M, Schilder F, vandelande S
所属機関	Department of clinical psychology, Vrije universiteit
言語	英語
書誌情報	Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention, 18(4), 170-7
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	オランダ
対象領域	留置所
目的	オランダの囚人に対する自殺予防対策について述べる。
結果・内容・提言	オランダの自殺予防対策は比較的良いものである。スクリーニング・モニタリング・危険な手段を使用不可にすること・心理的サポート・特別機関への移送などを行っている。最も重要なのはスクリーニングであり、他の手段の実行を可能にする。
キーワード	

管理番号	E-106
タイトル(英語)	Social and cultural patterns of suicide in young people in rural Australia.
タイトル(日本語)	
研究者	Baume P. J., Clinton M. E.
所属機関	Australian institute for suicide research and prevention, Griffith university
言語	英語
雑誌情報	Australian journal of rural health, 5(3), 115-20
論文種類	
研究デザイン	Report
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	オーストラリア
対象領域	地域
目的	田園地域における若者の自殺パターンについて記述する。
結果・内容・提言	30歳以下の田園地域に居住する若者の自殺が特に増加している。構造的な問題や個人的脆弱性、文化的・社会的危機など要因は複雑であり、これらの要因がどう関連しているかの検討が今後必要である。
キーワード	Rural areas, suicide, young people

E-105	
School-based suicide prevention programs: Are they effective?	
Mazza J. J.	
University of Washington, department of educational psychology	
英語	
School Psychology Review, 26(3), 382-396	
Review	
学校	
学校における自殺予防プログラムの効果を検討するための方法、理論的位置づけ、対象者、目標に関してレビューする。	
多くのプログラムが短期間であり、ストレスモデルに基づくものであった。また、実際の自殺行動のアセスメントはうまくいっていない。効果評価として、自殺行動の減少よりも、知識、習得度、態度変化を用いている。そのため、これらのプログラムが実際の青年の自殺行動を減少させているかは疑問視される。	
Effectiveness of school based suicide prevention programs, adolescents	

E-107	
Suicide ideation among recent immigrants: an epidemiological study.	
Ponizovsky A., Saifro S., Ginath Y., Ritsner M	
Psychiatric epidemiology research unit, Talbieh mental health center	
英語	
Israel Journal of Psychiatry and Related Sciences, 34(2), 139-48	
cross-sectional study	
重回帰分析	
400名	
イスラエル	
地域	
ソビエトからイスラエルへの移民における自殺念慮について疫学調査の結果を報告する。	
過去1ヶ月の自殺念慮、人口統計学的要因と自殺念慮の関連、心理的ストレス、抑うつ、情緒的孤立感とソーシャルサポートについて調査した。人口の16.9%において自殺念慮が認められ、ソーシャルサポートの低如から社会的・心理的に孤立している者に多かった。男女ともに心理的ストレスが強い予測因子であり、女性のみ深刻な抑うつが自殺念慮の予測因子であった。	

管理番号	E-108
タイトル(英語)	Suicide litigation as an agent of change in jail and prison: An initial report.
タイトル(日本語)	
研究者	Danto B L
所属機関	Forensic psychiatrist
言語	英語
雑誌情報	Behavioral Sciences & the Law, 15(4), 415-425
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	留置所
目的	矯正施設における自殺予防に関してガイドラインをレビューする。
結果・内容・提言	1960年代にはじめてACAという基準が提示され、大きな変化をもたらした。保釈官や精神健康管理スタッフの専門的基準の改善につながり、留置所における自殺が減少した。
キーワード	

管理番号	E-110
タイトル(英語)	A study of elderly suicides in Hong Kong.
タイトル(日本語)	
研究者	Chi I, Yip P S, Yu G K, Halliday P
所属機関	Department of social work and social administration, university of Hong Kong
言語	英語
書籍情報	Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention, 19(1), 35-46
論文種類	
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	
対象観察期間	1992
対象サンプル数	279名
サンプルの国籍 (対象地域)	中国
対象領域	地域
目的	老人の自殺の特徴とその原因を調査する。
結果・内容・提言	ほとんどが自宅か近所で自殺を試みており、死の直前には1人であることが多い。慢性疾患に罹患している者も多かった。27%の者が死の1ヶ月以内に精神科に受診をしていた。7割近くの者が、家族や親しい人に自殺の危険がある旨を話しており、多くの者が自殺の兆候を多く見せていた。
キーワード	

管理番号	E-109
タイトル(英語)	Suicide prevention in New South Wales Correctional Centres.
タイトル(日本語)	
研究者	Eyland S, Corben S, Barton J
所属機関	School of public health and tropical medicine, university of Sydney
言語	英語
書籍情報	Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention, 18(4), 163-9
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	オーストラリア
対象領域	留置所
目的	ニューサウスウェールズにおける囚人の自殺予防対策について概観する。
結果・内容・提言	収容直後や収容中に適切な心理的サービスを受ける、スタッフ間のコミュニケーションを十分にとる、操作的に自傷行為を減らす、自己効力感や自己コントロール感を妨害しないような環境整備、宿園に基づいたスタッフの訓練と自殺予防への働き、が主な発見である。
キーワード	



E-111	
Acculturative stress, depression, and suicidal ideation among Mexican-American adolescents: implications for the development of suicide prevention programs in schools.	
Hovey J D	
University of Toledo	
英語	
Psychol Reports. 83(1). 249-50	
cross-sectional study	
相関係数	
54名	
アメリカ	
学校(高校)	
文化変容ストレスと抑うつ、自殺念慮の関連性を検討する。	
南カリフォルニアに高校に通うメキシカンアメリカ人の男性26名、女性28名を対象とした。文化変容ストレスに関する質問紙(SAFE)とレノルト抑うつ尺度、自殺念慮尺度を実施した。文化変容ストレスの高さと抑うつ、自殺念慮の程度には互の相関が見られた。	

管理番号	E-112
タイトル(英語)	Asking adolescents to explain discrepancies in self-reported suicidality.
タイトル(日本語)	
研究者	Velting D M, Rathus J H, Asnis G M
所属機関	Psychological science, Ball state university
言語	英語
書誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior. 28(2). 187-196
論文種類	
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	カイニ乗検定
対象観察期間	
対象サンプル数	48名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	医療
目的	青年期の自殺行動に共通する類型を示す。
結果・内容・提言	自己式質問紙により、自殺企図歴のある48名を対象とした。その後半構造化面接を実施したところ、約半数の回答に矛盾が見られた。多くの者は自殺行為と自殺未遂、自殺意図と自殺行為の区別がつかないと思われた。
キーワード	

管理番号	E-114
タイトル(英語)	Evaluating an intervention for the elderly at increased risk of suicide.
タイトル(日本語)	
研究者	Morrow-Howell N, Becker-Kempainen S, Judy L
所属機関	George warren brown school of social work, Washington university
言語	英語
書籍情報	Research on Social Work Practice, 8(1), 28-46
論文種類	
研究デザイン	Intervention study
統計手段	t検定
対象観察期間	1994-1996
対象サンプル数	61名
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	地域
目的	自殺予防のための電話相談について評価する。
結果・内容・提言	抑うつや社会的孤立によりリスクが増加する老人をターゲットにしたプログラムである。危機介入後、30名に はすぐに対応を行い、31名をコントロール群にした。4ヶ月後、抑うつ症状の減少傾向が見られた。
キーワード	

E-113	
Attempted suicide among Inuit youth: psychosocial correlates and implications for prevention.	
Kirmayer L J, Boothroyd L J, Hodgins S	
McGill University	
英語	
Can J Psychiatry, 43(8), 816-22	
retrospective cohort study	
ロジスティック回帰分析	
203名	
カナダ	
地域	
イヌイットの青年における自殺のリスク要因と防衛要因を確認する。	
近年、イヌイットの青年は自殺未遂および自殺既遂が多い。1992年に実施された無作為地域調査より、15歳 から24歳のイヌイットの青年を抽出した。先行研究により示されている要因を基盤としてロジスティック回帰 分析を行った。薬物の使用、アルコール依存、精神的問題の痕跡、ライフイベントの多さが自殺企図と正の相 関を、定期的な教養訪問がその相関を示した。	
Suicide attempts, inuit, adolescents, substance use, culture change, gender	

E-115	
Psychiatric and injury prevention approaches to youth suicide: Questions, answers, and lethal means.	
Christoffel K	
Pediatrics and preventive medicine, Northwestern university school of medicine	
英語	
Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry. 37(5). 481-484	
Review	
医療/地域	
10代の若者の自殺予防について述べる。	
	様々な国において、10代の若者の自殺が増えている。精神科医は、10代の若者の自殺傾向に対する銃器の影響を考慮すべきである。身体的・社会的環境や自傷行為に用いられる機能的標準の悪化は、自傷行為の制御に重要な要因である。

管理番号	E-116
タイトル(英語)	Suicide mortality and pesticide use among Canadian farmers.
タイトル(日本語)	
研究者	Pickett W, King W D, Lees R E, Bienefeld M, Morrison H I, Brisson R J
所属機関	Department of community health and epidemiology, Queen's university
言語	英語
雑誌情報	Am J Ind Med., 34(4), 364-72
論文種類	
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	多重ロジスティック回帰分析
対象観察期間	1971-1987
対象サンプル数	13087名
サンプルの国籍(対象地域)	カナダ
対象領域	職域
目的	農業従事者における農薬と自殺発生の関連について検討する。
	カナダの農業従事者コホート研究のデータを使用した。1971年から1987年における男性の自殺例1457例であり、さらに彼らと当時の年齢と地域をマッチングさせた生存者からコントロール群11658名を抽出した。除害剤、殺虫剤の散布範囲の広さや農業従事者のコストと関連は見られなかったものの、農薬に直接暴露されやすい者においては、除害剤、殺虫剤の散布が自殺率を高めていた。また、被曝者に多かった。結婚している者や雇業者、高学歴者では自殺率が低くなっていった。
キーワード	Agriculture, farming, pesticide, suicide, case-control study

管理番号	E-118
タイトル(英語)	Adolescent suicide prevention: acceptability of school-based programs among secondary school principals.
タイトル(日本語)	
研究者	Miller D N, Eckert T L, DuPaul G J, White G P
所属機関	Department of education and human services, Lehigh university
言語	英語
雑誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 29(1), 72-85
論文種別	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	分散分析
対象観察期間	
対象サンプル数	185名
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	3つの学校における自殺予防プログラムに対する高校校長の受容の程度を検討する。
結果・内容・提言	1994年から1995年におけるNASSP(国立の校長協会)メンバーからランダムに対象者を抽出し、その4割の185名から回答を得た。学校全体におけるスクリーニングより、カリキュラムに基づく学生向けプログラムと勤務中の教員訓練が受容されていた。
キーワード	

管理番号	E-117
タイトル(英語)	Suicide prevention is possible: A review of recent studies.
タイトル(日本語)	
研究者	Goldney R D
所属機関	Department of psychiatry, university of Adelaide
言語	英語
雑誌情報	Archives of Suicide Research, 4(4), 329-339
論文種別	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	
目的	自殺予防対策の効果について概観する。
結果・内容・提言	RCTによる自殺予防対策の効果の検証はなく、自殺予防に関する体系的コメントも多い。しかしながら、自殺率が元々低いことからRCTによる研究は不可能であり、様々な自殺予防対策の有効性がこれまでに示されている。
キーワード	Suicide, randomized controlled trial, suicide prevention centres, depression, schizophrenia anti-depressants, lithium, clozapine

管理番号	E-119
タイトル(英語)	High school health teachers' perceived self-efficacy in identifying students at risk for suicide.
タイトル(日本語)	
研究者	King K A, Price J H, Tejljohann S K, Wahl J
所属機関	University of Cincinnati
言語	英語
雑誌情報	J Sch Health. 69(5). 202-7
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	分散分析
対象観察期間	
対象サンプル数	228名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	青年の自殺に対する高校の養護教員の自己効力感を検討する。
結果・内容・提言	国内の高校からランダムに500校を抽出。228名から回答を得た。回答者の多くは女性。白人、修士号取得者であった。多くのものが生徒の自殺リスクの認識が自分たちの役割であると考え、リスクを把握することで自殺が減少すると考えていた。学内で自殺予防対策を持つ学校に動めるものにおいて、自殺に対する自己効力感が高かった。
キーワード	

管理番号	E-120
タイトル(英語)	Suicidal ideation among college students in the United States.
タイトル(日本語)	
研究者	Brener N D, Hassan S S, Barrios L C
所属機関	Division of adolescent and school health, national center for chronic disease prevention
言語	英語
雑誌情報	Journal of consulting and clinical psychology. 67(6). 1004-8
論文種類	
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	ロジスティック回帰分析
対象観察期間	
対象サンプル数	4838名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(大学)
目的	アメリカの大学生における自殺念慮について調査し、自殺念慮と薬物使用の関連を検討する。
結果・内容・提言	1995年における大学健康リスク行動調査のデータをを使用した。国内の学部生に質問紙を配布、4838名から回答を得た。過去1年間において、1割の学生が自殺念慮について真剣に考えていた。人口統計的変数を調整した結果、タバコ、アルコール、不法薬物の使用が自殺のリスクを高めていた。
キーワード	

E-121	Suicide ideation among recent immigrants to Israel from the former Soviet Union: an epidemiological survey of prevalence and risk factors.
研究者	Ponizovsky A M, Ritsner M S
所属機関	Psychiatric epidemiology research unit, Talbeih mental health center, Hebrew university-Hadassah medical school
言語	英語
書誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 29(4), 376-92
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	カイ二乗検定, 分散分析
対象観察期間	
対象サンプル数	788名(統制群411名)
サンプルの国籍(対象地域)	イスラエル
対象領域	地域
目的	ソ連からイスラエルへの移民を対象に、自殺念慮・自殺企図と心理的ストレス、抑うつ、ソーシャルサポート、適応困難の関連を検討する。
結果・内容・提言	自記式による国民調査の結果を使用した。戸別にサンプリングを実施。移民全体の構成と同様の割合になるように、19歳から74歳の788名を抽出した。対照群として、ロシア在住のイスラエル人411名をマッチングさせた。自殺念慮をもつ者は移民のほうが多かった。若者、配偶者と住んでいない者、サポートの低い者、医師や教師、バルト諸国、モスクワからの移民、移民後2、3年の者がハイリスクであると考えられる。心理的ストレス、抑うつ、敵意、攻撃性が特に大きなリスクであった。
キーワード	

E-122	Suicide prevention in adolescents and young adults: The Geneva university hospitals' program.
タイトル(日本語)	
研究者	Perret-Catipovic M
所属機関	Geneva university hospital
言語	英語
書誌情報	Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention, 20(1), 36-40
論文種類	
研究デザイン	Report
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	スイス
対象領域	地域
目的	ジュネーブの青年に対する自殺予防対策の紹介。
結果・内容・提言	スイスでは、自殺は15歳から24歳の青年の主な死因である。ジュネーブ大学病院と慈善組織が協力して自殺予防団体を組織した。専門家に対する培還と家族や友人へのポストベンションの2つの取り組みを行っている。また、自殺念慮のある青年が地域資源を活用できるようなホットラインも新たに作成した。
キーワード	

E-123	
Suicide within 12 months of contact with mental health services: national clinical survey.	
Appleby L, Shaw J, Amos T, McDonnell R, Harris C, McCann K, Kiernan K, Davies S, Bickley H, Parsons R	
University of Manchester	
英語	
BMJ: British Medical Journal. 318(7193). 1235-9	
retrospective cohort study	
カイニ乗検定	
1996年から1998年	
2370名	
イギリス	
医療	
精神疾患患者の自殺既遂例の臨床的側面を検討する。	
	自殺前1年以内に精神健康サービスを利用し、自殺既遂に至った事例2370名を対象とした。ほとんどのものがアルコールや薬物の過剰であり、16%が入院中であり、21%が特別観察中であり、24%が退院後3ヶ月以内であり、特に1週間以内が多かった。26%が薬物依存の治療を受けておらず、28%が地域サービスを利用していなかった。23%の自殺は防げたのではないかと考えられる。

E-124	
The effect of environmental physical influences on suicide: How long is the delay?	
Stoupe E, Abramson E, Sulkes J	
Toor heart institute, division of cardiology	
英語	
Archives of Suicide Research. 5(3). 241-244	
論文種類	Comment
研究デザイン	retrospective cohort study
統計手段	相関
対象観察期間	
対象サンプル数	2334名
サンプルの国籍 (対象地域)	イスラエル
対象領域	地域
目的	環境的変化の遅れと自殺の関連について検討する。
結果・内容・発言	1. 2ヶ月前の地磁気活動、最大電流、ブルトンの流動が自殺率と関連していた。
キーワード	

管理番号	E-126
タイトル(英語)	The implementation and institutionalization of a school-based youth suicide prevention program.
タイトル(日本語)	
研究者	Kalafat J, Ryerson D M
所属機関	
言語	英語
雑誌情報	Journal of Primary Prevention, 19(3), 157-175
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	
対象懸察期間	
対象サンプル数	57校
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	地域・学校における青年の自殺予防プログラムについて調査する。
結果・内容・提言	自殺予防プログラムの普及から10年が経過した。46の公立高校に自殺予防プログラムの実施と制度化について質問紙調査を実施し、最初にプログラムを実施した11校にインタビューを行った。前者31校と後者8校においては生徒への購置がプログラムの中心となっていた。
キーワード	Youth suicide, prevention, implementation and institutionalization

管理番号	E-125
タイトル(英語)	The Finnish national suicide prevention program evaluated.
タイトル(日本語)	
研究者	Kerkhof A J
所属機関	
言語	英語
雑誌情報	Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention, 20(2), 50 & 63
論文種類	Editorial
研究デザイン	Report
統計手段	
対象懸察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	フィンランド
対象領域	地域
目的	フィンランドの自殺予防対策について紹介する。
結果・内容・提言	フィンランドの自殺予防対策は、世界で始めての調査に基づき総合的な国家的プログラムであり、最終的には9%の自殺率減少を導いた。
キーワード	



E-127	Young males attending a family-planning clinic: some ideas about consequences of child abuse.
Smith P. B., Weinman M. L., Buzi R. S.	Population program Baylor college of medicine
英語	
Psychol Reports, 85(2), 529-32	
cross-sectional study	
33名	
アメリカ	
医療	
	父親教室が行動的・医療的ニーズを求める場となるか、その役割を調査する。
	父親教室に参加する33名の男性に、児童虐待を受けたかどうか、児童虐待と10代における問題行動への影響について尋ねた。9名は児童虐待を受けていた。多くの者が、児童虐待の結果として、薬物・アルコールの乱用や自殺が起ることを考えていた。15名は薬物乱用や禁煙中などの特別な問題がなかったが、父親教室の内容として児童虐待の予防を取り上げることに関心を示した。

E-129	Prevalence of suicide programs in schools and roadblocks to implementation.
タイトル(英語)	
タイトル(日本語)	
研究者	Hayden D. C., Lauer P.
所属機関	Mental health program director, Department of psychology, Western Washington University
言語	英語
雑誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 30(3), 239-251
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	カイ二乗検定
対象観察期間	
対象サンプル数	163学区
サンプルの国籍(対象地域)	ワシントン
対象領域	学校(中学・高校)
目的	学校が自殺予防プログラムに着手する効果的な手段について、学区や回答者の職位により回答を分析して、自殺予防プログラムの発展について考える。
結果・内容・提言	ワシントン州の全学区を対象に、自殺予防プログラムの普及率と、実行の主な阻害要因を調査した。163学区から回答があり、その大多数は自殺予防プログラムや政策、手続を所有していなかった。最大の阻害要因はスタッフ不足であり、もっと情報がほしいことが最大のニーズであった。確立された政策や手続きが自殺予防プログラム設立の第一歩であると考えられているものの、この選択肢を選んでいる学校はなかった。学校側は予算や教師への負担がどの程度になるのかを懸念しており、学校内のスタッフがプログラム実行の擁護者となってくれることが望ましい。
キーワード	

管理番号	E-131
タイトル(英語)	Suicide assessment in a prison environment: A proposed protocol.
タイトル(日本語)	
研究者	Correia K M
所属機関	Federal bureau of prisons
言語	英語
書誌情報	Criminal Justice and Behavior, 27(5), 581-599
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象組織	留置所
目的	留置所における自殺予防プログラムの成功要因に関して、様々な側面から議論する。
結果・内容・提言	自殺アセスメントの体系化や、不適切な医療機関への紹介、取柄、本当にリスクのある者の分類が重要である。
キーワード	

E-130	
Project SOAR: a training program to increase school counselors' knowledge and confidence regarding suicide prevention and intervention.	
King K A, Smith J	
Assistant Professor, Health promotion and education program, university of Cincinnati	
英語	
J Sch Health, 70(10), 402-7	
cross-sectional study	
相関係数	
1999	
186名	
アメリカ(ダラス)	
学校	
ダラス、テキサスの全スクールカウンセラーがSOARプロジェクトにより自殺予防プログラムの訓練を受けた。ダラスのスクールカウンセラーの自殺のリスクファクターに関する知識と、自殺念慮を持つ生徒に直面した際に適切な手段で対応できるかどうかを調査した。	
1999年春の強制参加ミーティングにおいて調査を実施。186名から回答を得た。多くの者がスクールカウンセラーの経験が10年以下であり、半数が4年以内に訓練を受けていた。大多数が自殺のサインに気づくと、生徒の自殺リスクの評価、サポートの提供が可能であると答え、ハイリスク者に対する介入手続きを知っていると答えた。	

E-130	Project SOAR: a training program to increase school counselors' knowledge and confidence regarding suicide prevention and intervention.
King K. A. Smith J	
Assistant Professor, Health promotion and education program, university of Cincinnati	
英語	
J Sch Health. 70(10), 402-7	
cross-sectional study	
相関係数	
1999	
186名	
アメリカ(ダラス)	
学校	
ダラス、テキサスの全スクールカウンセラーがSOARプロジェクトにより自殺予防プログラムの訓練を受けた。ダラスのスクールカウンセラーの自殺のリスクファクターに関する知識と、自殺念慮を持つ生徒に直面した際に適切な手段で対応できるかどうかを調査した。	
1999年春の強制参加ミーティングにおいて調査を実施。186名から回答を得た。多くの者がスクールカウンセラーの経験が10年以下であり、半数が4年以内に訓練を受けていた。大多数が自殺のサインに気づくこと、生徒の自殺リスクの評価、サポートの提供が可能であると答え、ハイリスク者に対する介入手続きを知っていると答えた。	

E-131	Suicide assessment in a prison environment: A proposed protocol.
Correia K M	
Federal bureau of prisons	
英語	
Criminal Justice and Behavior, 27(5), 581-599	
論文種類	
Review	
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	
留置所	
留置所における自殺予防プログラムの成功要因に関して、様々な側面から議論する。	
結果・内容・提言	自殺アセスメントの体系化や、不適切な医療機関への紹介、仮病、本当にリスクのある者の分類が重要である。
キーワード	

管理番号	E-135
タイトル(英語)	Immediate post intervention effects of two brief youth suicide prevention interventions.
タイトル(日本語)	
研究者	Randell B P, Eggert L, Pike K C
所属機関	Research assistant professor, University of Washington school of nursing
言語	英語
書籍情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 31(1), 41-61 (E-136; Comment by Goldney R D, 32(4), 454; E-137; Reply 32(4), 454-456)
論文種類	
研究デザイン	Intervention study / randomized controlled trial
統計手段	傾向分析
対象観察期間	
対象サンプル数	341名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	二つの簡潔な自殺予防プロトコル実施直後の効果を検討する。
結果・内容・提言	C-CARE(カウンセラーによるケア)とC-CAREにOAST(コーピング・サポートに関する12セッションの訓練)をビ アグループ介入で実施。高校を中退した者および9年生から12年生の自殺の恐れのある生徒341名をハイ スク者として、介入対象とした。C-CAREのみ、C-CARE+CAST、通常の介入の3群にランダムに群分けし た。2回の調査結果から、傾向分析を行った。C-CARE+CASTでは、自己コントロール、問題解決コーピング、 家族のソーシャルサポートを増加させた。C-CAREのみ、C-CARE+CASTともに抑うつ、自尊心の上 昇がみられた。いずれの群でも同様に、自殺行動や怒りコントロールの問題、家族内ストレスの減少がみられ た。
キーワード	

E-134	
Evaluation of psychopathological factors and origins of suicides committed by soldiers, 1989 to 1998.	
Fiorowski A, Gruszczynski W, Wawrzyniak Z	
Department of Psychiatry, Military Medical University	
英語	
Military Medicine, 166(1), 44-7	
retrospective cohort study	
1989-1998	
473名	
ポーランド	
領域	
	1989年から1998年における軍人の自殺既遂例に関して、その発端や要因を分析する。
	ポーランドにおける軍隊の全自殺既遂例(163名の軍人と274名の兵役生)を対象とした。多くの事例に共通の 要因は、精神障害と心理的要因の組合せであった。兵役生の場合、多くが入隊から12ヶ月以内に発生してお り、軍人の場合は入隊から11年~15年目に多く発生していた。